

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 北摂福祉会 地域支援センターわとと		
○保護者評価実施期間	R6年4月1日		～ R7年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名(21家庭)	(回答者数) 19家庭
○従業者評価実施期間	R6年4月1日		～ R7年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 16名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団療育だけでなく個別療育にも力を入れており、こどもの障がい特性や発達に応じた専門性のある支援を行っていること。	・言語聴覚士、保育士の他にも、強度行動障害支援者養成研修やPECSなどの研修を受けた専門的知識のある職員がチームで支援を行っています。 ・専門性を活かした課題の作成、コミュニケーションツールの作成、活動プログラムの作成等を行い実施しています。	・今後も専門的知識のある職員からアドバイスを受けるなど内部研修や外部研修に積極的に参加し、職員の知識と技術の向上に取り組みます。 ・今後もこどもの障がい特性や発達に応じた専門性のある療育にチームで取り組みます。
2	充実した活動プログラムを実施していること。	・こどもの障がい特性や発達に応じたプログラム内容になっているかなど、担当職員を中心に会議等で検討し、活動プログラムを立案しています。 ・週ごと、曜日ごとに偏りが出ないように工夫し、様々な活動プログラムを提供しています。 ・各家庭に配布している月ごとの活動プログラムには、5領域とのつながりを明確に記載しています。	・今後もこどもたちが活動に興味を持ち、楽しんで取り組む中で成長していけるよう、プログラム内容を検討し提供していきます。
3	日頃からこどもの様子を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について話し合う環境を整えていること。	・毎送迎時に保護者と情報交換を行っています。また、定期的に面談を実施し当事業所での様子を伝えたり、学校や家庭での様子、他事業所での様子、訓練での様子など保護者から聞き取りを行い、支援の統一を図っています。 ・必要に応じて、保護者との電話懇談も随時実施しています。	・今後も保護者と密に連携を図り、家庭、学校、他事業所、訓練での様子や取り組みなど聞き取りを行い、支援の統一を図ります。 ・今後も保護者からの聞き取りだけでなく、学校見学や他事業所見学などを通して、こどもの様子を直接見る機会を増やしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	場面に応じて、こどもの障がい特性ごとに空間を分けて支援することが必要である。	・活動スペースが広く集団活動を行なうには適していますが、個別活動時に集中して課題に取り組みたい時や、静かな場所でゆっくり落ち着いて過ごしたい児童がいる時には、空間を分ける必要があると感じています。	・今後は場面に応じて空間を分けることができるように、可動式の間仕切りの設置を検討していきます。
2	強度行動障がいの状態にある児童が在籍していることもあり、クールダウンできる部屋(個室)が必要である。	・強度行動障がいの状態にある児童や聴覚過敏の児童が在籍しているため、状況に応じて集団から離れ静かに過ごせる場所(独立した個室)が必要だと感じています。	・現在は、施設内の奥のスペースにソファを置いて衝立で仕切り個室のような空間を設けていますが、今後はもう少し音や視覚的な刺激を遮断しクールダウンしやすい静かな空間を確保できるよう検討していきます。
3	当事業所の非常時等の対応について、保護者への周知徹底が必要である。	・毎年4月に各家庭に非常時等の対応について各種マニュアルを画面にて配布していますが、十分に周知されていないと感じています。 ・年2回こどもたちと共に避難訓練を実施し、おたよりにて保護者へ報告していますが、十分に周知されていないと感じています。	・今後は年に数回、非常時の対応について各種マニュアルを各家庭に配布することや保護者に口頭で説明することなどを検討していきます。 ・避難訓練を実施した際、毎月各家庭に配布している「おたより」に訓練時の様子を写真と共に掲載していますが、別途「避難訓練報告書」を作成し各家庭に配布するなど検討していきます。